

予防接種あれこれ

小児科 大谷 英之



【海外旅行とワクチン】

海外では日本にはない病気が流行していることがあります。事前によく調べて、可能ならワクチンで予防するようにしましょう。

また、入国にワクチンの摂取証明を求められる場合もあります。

直前にあわてないようしっかりと準備しておきましょう。

【そのほかのワクチン】

上記以外に現在日本で接種できるワクチンと、接種が勧められる方を列記しておきます。

いずれも世界中で使用されており、安全性と有効性が確立されているものばかりです。該当する方はかかりつけ医に相談してください。

A型肝炎…流行地（東南アジア）に旅行される方

B型肝炎…身内にB型肝炎ウイルス陽性者がいる方、医療従事者

肺炎球菌…65歳以上の方、とくに肺の病気や糖尿病があり肺炎にかかる危険性が高い方

破傷風…農作業従事の方、庭仕事に興味の方

BCG・ポリオ・百日咳・ジフテリア…定期接種です。案内どおりに接種してください。

【最後に】

お子様の予防接種歴がはっきりしないときは、母子手帳をみてください。空欄が1個でもあるようなら不完全な可能性があります。

必ず小児科で相談してください。



百人に一人は髄膜炎を発症し、数千人に一人は脳炎まで進展し重い後遺症を残します。また、思春期以降の男性がかかるため、思春期以降の男性がかかる原因となること

はよく知られています。以前のワクチンは髄膜炎の合併症が多かったためあまりいい印象がないようですが、最近のものは改良されておきほとんど影響ありません。

ぜび接種をお勧めします。

【みずぼうそう】

ワクチンをとれば発症はほぼ確実に予防できます。感染すれば間違いなく5〜7日間の自宅安静が必要となるので、共働きで保育園を休めない、といった方には接種をお勧めします。

【日本脳炎】

普段は豚の中に住んでいて、蚊によって媒介されるウイルスが原因で起きる病気で、日本脳炎は過去の病気と違っていても多いようです。現在でも日本で飼育されている豚の8割以上は日本脳炎ウイルスを保有しているといわれています。

感染すると千人に一人程度の確率で脳炎を起こします。脳炎患者のうち、20〜30%の人はなくなり、50%

病気はかかる前に予防するのが一番です。そのためにいろいろな健康法があるわけですが、どれも効果ははっきりしない(?)もの。そんな中で、ほぼ確実に効果が得られるのが予防接種です。今回は予防接種の重要性についてお話いたします。

【麻疹（はしか）】

麻疹は医学が発達した現在でも恐ろしい病気で、かかった人のうち千〜二千人に一人は死亡し、千人に一人は脳炎を起こしてしまいます（アメリカのデータ）。発症してしまうと有効な治療法は全くありませんので、予防接種が非常に重要です。

無料で受けられる期間は1歳〜2歳までの間と、小学校に入学する1年前〜入学するまでの2回ですが、それ以外の方でも、麻疹にかかったことがなくて予防接種を受けていない方は接種を強くお勧めします。

【おたふくかぜ】

軽い病気と思われがちですが、合併症が多く意外と厄介な病気です。